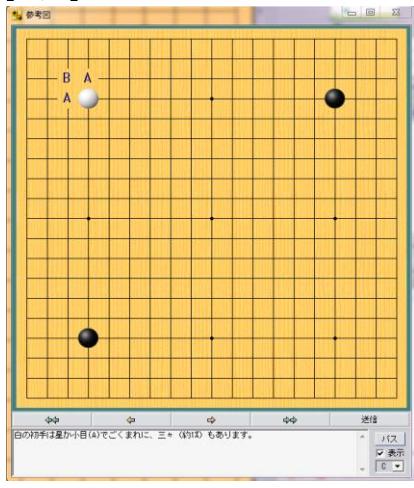


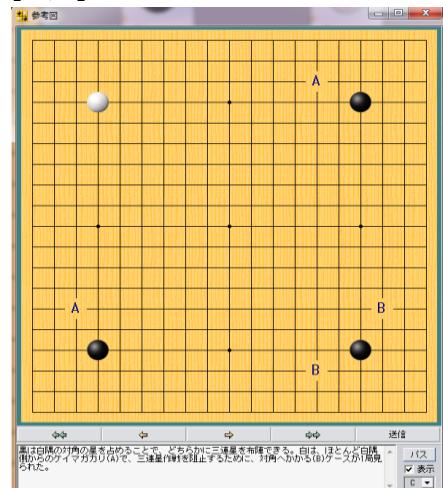
2. 代表的な進行 1 (「三連星ツケノビ黒鳥の陣」ができるまで)

【1図】白の初手は、星か小目(A)で、三々(B)はまれ (2局) であった。

【1図】

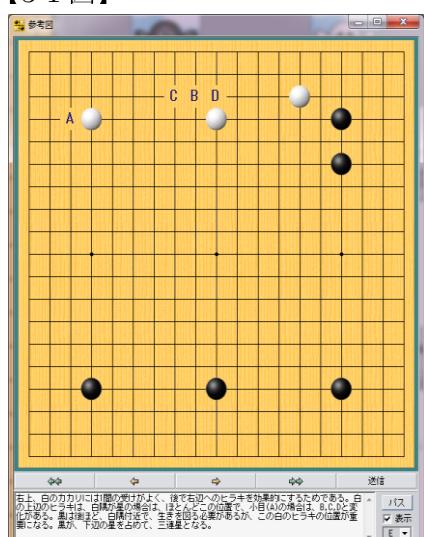


【2図】

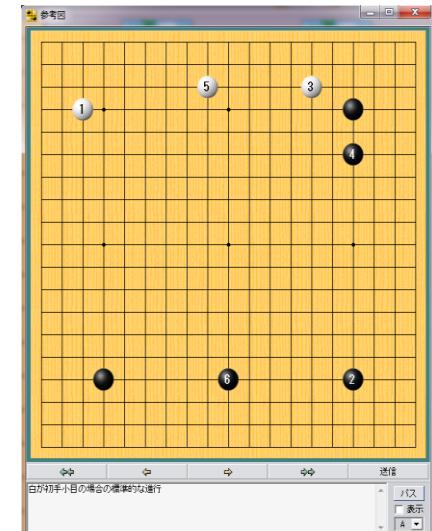


【2図】黒は白隅の対角の星を占めることで、どちらかに三連星を布陣できる。白は、ほとんど白隅側からのケイマガカリ(A)で、三連星作戦を阻止するために、対角へかかる(B)ケースが1局見られた。

【3-1図】

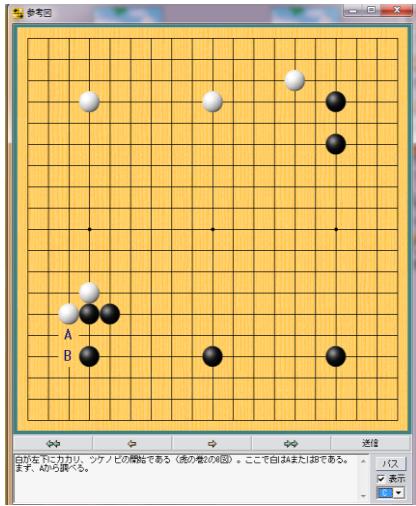


【3-2図】



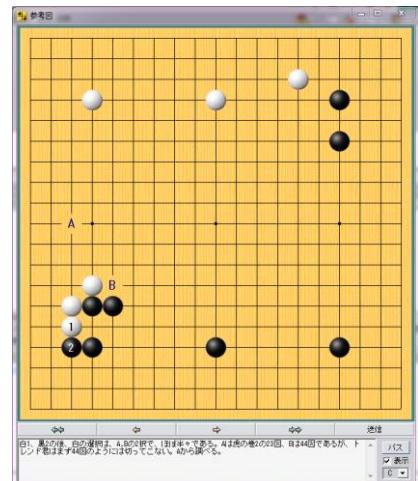
【3-1図】右上、白のカカリには1間の受けがよく、後で右辺へのヒラキを効果的にするためである。白の上辺のヒラキは、白隅が星の場合は、ほとんどこの位置で、小目(A)の場合は、B,C,Dと変化がある。黒は後ほど、白隅付近で、生きを図る必要があるが、この白のヒラキの位置が重要になる。黒が下辺の星を占めて、三連星となる。白が初手を小目の場合は3-2図の進行が標準的である。

【4図】



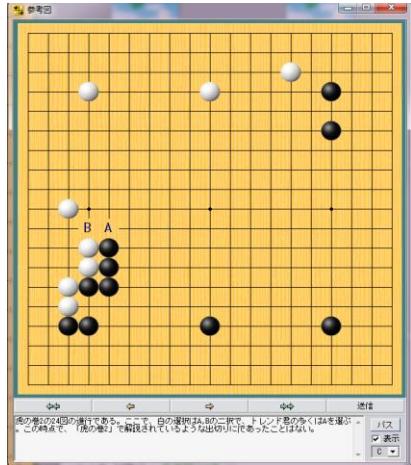
【4図】白が左下にカカリ、ツケノビの開始である（虎の巻②の8図）。ここで白はAまたはBである。まず、Aから調べる。

【5図】



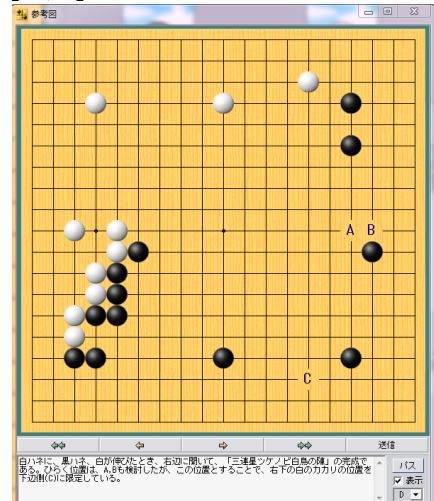
【5図】白1、黒2の後、白の選択は、A、Bの2択で、ほぼ半々である。Aは虎の巻②の23図、Bは44図であるが、トレンド君はまず44図のようには切ってこない。Aから調べる。

【6図】



【6図】虎の巻②の24図の進行である。ここで、白の選択はA、Bの二択で、トレンド君の多くはAを選ぶ。この時点で、虎の巻②で解説されているような出切りにあったことはない。

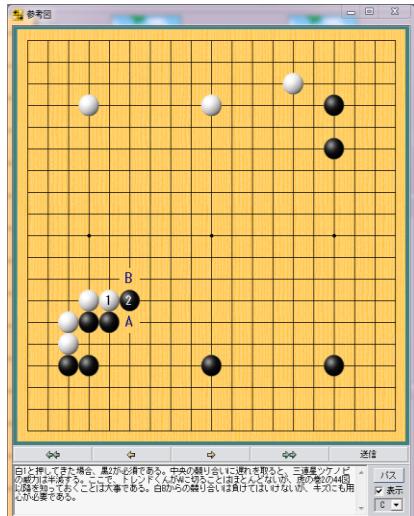
【7図】



【7図】白ハネに、黒ハネ、白が伸びたとき、右辺に開いて、「三連星ツケノビ黒鳥の陣」の完成である。ひらく位置は、A、Bも検討したが、この位置とすることで、右下の白のカカリの位置を下辺側(C)に限定している。しかしながら、その後の検討で、下辺から中央右側で白が生きる展開もあり、Bの位置が良いようである。

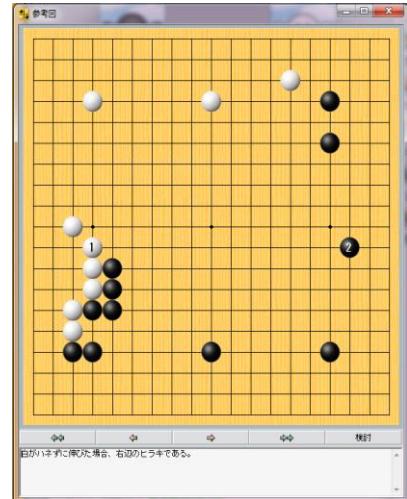
【8図】白がハネないで、6図Bと伸びれば、右辺に開いて、「三連星ツケノビ黒鳥の陣」の完成である。

【9図】



白1と押してきた場合、黒2が必要である。中央の競り合いで遅れを取ると、三連星ツケノビの威力は半減する。ここで、トレンド君がAに切ることはほとんどのないが、Aと切られた場合に備え、虎の巻②の44図以降を知っておくことは大切である。白Bからの競り合いは負けてはいけないが、キズにも用心が必要である。

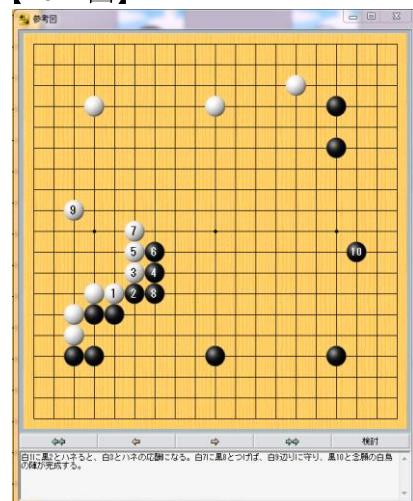
【8図】



【9図】白1(5図B)と中央に押した場合、虎の巻②の44図のように、ハネが必要である。中央の競り合いで遅れを取ると、三連星ツケノビの威力は半減する。ここで、トレンド君がAに切ることはほとんどのないが、Aと切られた場合に備え、虎の巻②の44図以降を知っておくことは大切である。白Bからの競り合いは負けてはいけないが、キズにも用心が必要である。

【10-1図】白1に黒2とハネ、白3とハネの応酬になる。白7に黒8とつげば、白9付近に守り、黒10と念願の黒鳥の陣が完成する。左下の形は8図の形より、スキが多いので、白が右下にかかった後の変化で注意が必要になる。

【10-1図】



【10-2 図】10-1 図白 1 に対して、黒 2, 4 と二段にハネると、忙しく競り合いになる場合が多い。白 1, 3 と競り合ってきた場合、トレンド君は虎の巻②の44図ある白Bとは切らずにさらにハネて来る。このとき黒C とハネると、白A からの出切りが悩ましい。そこで、黒C とはねる前にD の切りを先にすることで、出切りを予防できる（10-3 図）。

【10-3 図】

